



# ファン・デ・ナゴヤ 美術展

名古屋市市民文化振興事業積立基金(文化基金)を活用し、1999年から開催している美術展です。  
ファン・デ・ナゴヤ美術展という名称は、美術のファンをひとりでも多く増やすために企画性のある美術展を名古屋から発信しようという意図と、基金の英訳foundationを重ね合わせて付けられ、多くの人々に親しまれることを目指しています。

会場

## 名古屋市民ギャラリー矢田

名古屋市東区大幸南一丁目1番10号  
カルポート東3F/4F  
TEL 052-719-0430

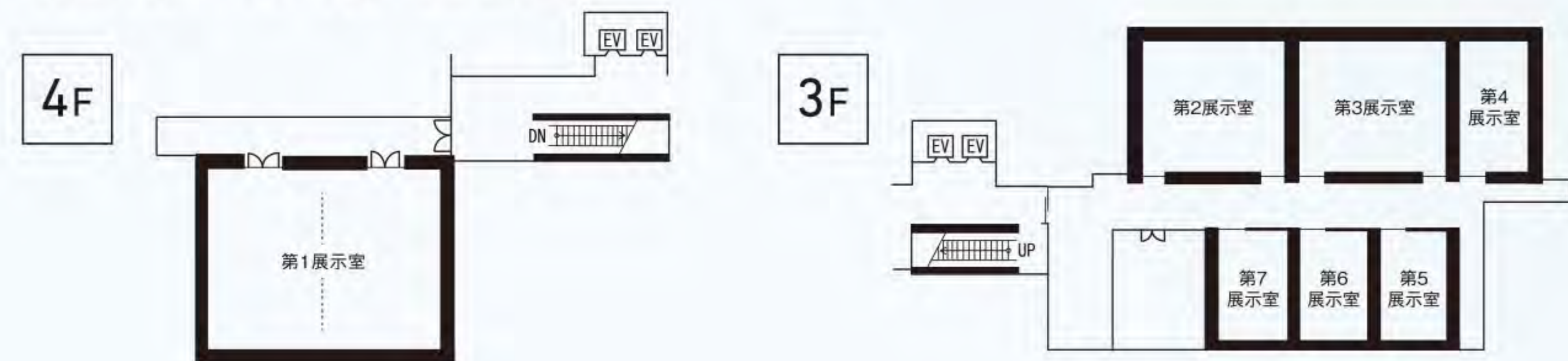
### 交通アクセス

- 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」下車 1番出口南へ徒歩5分
- ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」下車 南へ徒歩3分
- 市バス「大幸」下車 徒歩5分(名駅15号系統、東巡回系統)

※駐車場(98台)は東文化小劇場・東スポーツセンター・東図書館と共用です。  
専用駐車場はございません。  
※他施設催事により入出庫が混み合う場合がございますのでご注意ください。



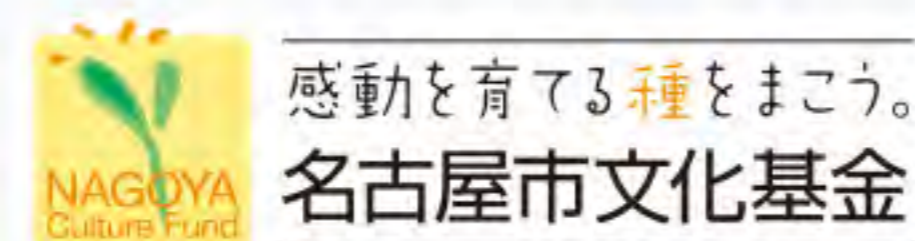
### 名古屋市民ギャラリー矢田 展示室平面図



同時開催

- 4F 第1展示室 『巻藁船』
- 3F 第2~4展示室 『宇宙は今時語るに及ばず』
- 3F 第5~7展示室 『密室、風通しの良い窓、ぎこちないモンタージュ』

【お問合せ】  
公益財団法人名古屋市文化振興事業団  
TEL 052-249-9385 <https://www.bunka758.or.jp/>



名古屋市文化基金事業



Fan De Nagoya Art Exhibition 2022

Fan De Nagoya Art Exhibition 2022



# Fan De Nagoya Art Exhibition

さまざまなジャンルによる新しいアートの企画コンペティション

# ファン・デ・ナゴヤ 美術展 2022

2022.1.7 [fri] — 1.16 [sun]

会場

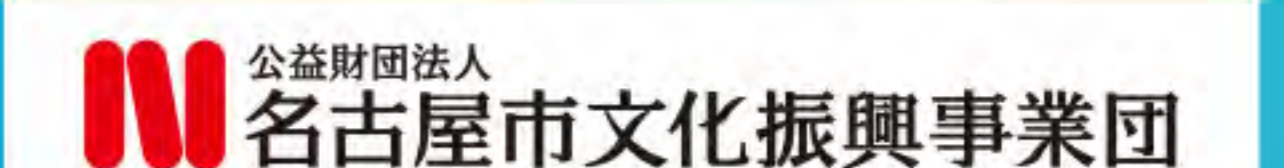
開館時間

名古屋市民ギャラリー矢田 **入場無料**

**10:00 ~ 19:00** 休館日: 11日(火)  
※10日(月・祝)、16日(日)は17:00まで

主催

ファン・デ・ナゴヤ 美術展 2022  
「巻藁船」「宇宙は今時語るに及ばず」  
「密室、風通しの良い窓、ぎこちないモンタージュ」実行委員会



新型コロナウイルス  
感染拡大防止に  
関するお願い

- マスク着用、手洗い、手指の消毒にご協力ください。
- 間隔をあけてのご観覧にご協力ください。また、大きな声での会話はできるだけお控えください。
- 発熱の症状がある場合や体調がすぐれない方はご来場をお控えください。
- 検温にご協力ください。37.5度以上の場合は、入場をお断りします。
- 感染が発生した場合に速やかにご連絡を差し上げるため、ご入場の際に受付にてお名前・お電話番号をご記入いただけます。
- スタッフもマスク着用、手指の消毒、換気など感染拡大防止に取り組みます。
- 新型コロナウイルス感染拡大の状況により、事業内容を変更する場合がございます。

# 『巻藁船』

企画 中村綾花 出品作家 杉原信幸、中村綾花



## 作家プロフィール

杉原信幸 × 中村綾花  
Nobuyuki Sugihara x Ayaka Nakamura

旅することで、土地と、その地に暮らす人や文化との出会いの驚きから表現を生み出し、人と自然の境界を聞く活動を行っている。長野県大町市在住。

2021年 穂穂の炬燵、ゆたん/高松アーティスト・イン・レジデンス2020/高松  
2020年 鮭皮の舟-シナス、マラフトネ/ゆいぽーとAIR秋季招聘プログラム成果展/砂丘館/新潟  
2020年 東海岸大地芸術祭2020/加路蘭/台湾  
2019年 東京ミッドタウンアワードアートコンペ/優秀賞受賞

杉原 信幸 Nobuyuki Sugihara  
2007年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了  
2010-20年 信濃の国 原始感覚美術館/長野  
2016年 NPO法人原始感覚設立。代表。  
瀬戸内国際芸術祭SokoLabo/香川  
2018年 Forest Art Path -アートエコロジー/ダルムシュタット/ドイツ  
2019年 ACC のフェロシップを受け8か月間の台湾原住民文化リサーチを行う。  
Fresh Windsと北欧の船舞踊リサーチ/スキャンジニア/ニッポン ササカフ財団助成/  
アイランド、フルクエー、デュマック

2021年 北アルプス国際芸術祭2020-2021/大町/長野

中村 綾花 Ayaka Nakamura  
専業主婦を経て、帽子作家。

2004年 信州大学農学部食糧生産科学科野菜研究室卒業  
2016-20年 信濃の国 原始感覚美術館/長野  
2018年 クラフトフェアまつもと/あがたの森/松本  
2019年 工芸の庭/松本  
2020年 The Art of Transformation/国立工芸文化館/台湾  
台東工芸材再生プロジェクト/台東美術館/台東/台湾



## 展覧会概要

熱田台地は名古屋市の中心部にある台地です。そこは太古、入江で、海に長く突き出た岬のような半島『洲崎』でした。熱田台地の北西端には名古屋城、南西端には熱田神宮があります。名古屋城は別名を亀の尾城といい、名古屋城は亀の尾の上に建っているという言い伝えがあります。そして熱田神宮にも熱田の社は巨大な亀の甲羅の上ののっているという蓬萊伝説があり、太古の海に細長く突き出たこの地を巨大な亀に見立て、神聖な場所としていたことが伺えます。同じく熱田台地にある洲崎神社は、二柱の白蛇を御神体とする白龍龍寿大神と石神が祀られた太古の入江の岬であり、天王崎港のあった場所でした。都市の風景の中で、その社叢だけが往時の港の美しい姿を留めているようでした。

江戸時代には『洲崎の天王祭』と『東照宮祭』は、二大祭と称されるほどの大きな祭で洲崎の天王祭でも巻藁船が活躍し、尾張徳川家7代藩主宗春のときに最盛期を迎えました。その後、盛衰があり、一時は途絶えていましたが、現在では堀川まつりのなかで巻藁船は復活し面影が伝えられています。熱田台地が半島であった頃の祈りのかたちを、亀の甲羅のような提灯飾りと天にかける橋のような真柱をかかげる巻藁船のイメージによって、帽子作家の中村綾花と美術家の杉原信幸が表現します。そこには二柱の白蛇や平手町遺跡の舟形木棺のイメージも重なり、名古屋の都市の風景の下に眠る台地の記憶を呼び覚まします。

# 『宇宙は今時語るに及ばず』

企画 山科晃一 出品作家 山科晃一

## 展覧会概要

「芝居」は、役者の身体の振舞や発声によって、ナラティブなフィクションを想起させる行為ですが、人間の小宇宙性そのものを現前化させる画期的な営みでもあります。宇宙はあらゆる角度から天文学的に、生物学的に、科学的に言及され、可視化されていますが、役者の身体によってのみ映し出される無限で夢幻の宇宙がホワイトキューブという現実空間にフィクションを介在させたとき、あらゆる方程式が解体されていくブラックホールの如し空洞が表出します。

## 作家プロフィール

山科晃一 Koichi Yamashina

1991年兵庫県神戸市生まれ。テレビ局勤務後、2019年東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻修了。映像制作会社、広告制作会社を経て現在フリーランスとして映像/広告のディレクション及びシナリオを担当。ナラティブを通して役そのものと対峙し、資本と身体の関係性や、役の実存性、「幽玄なるもの」について追究。

『預言獣』(MONSTER Exhibition2019)  
『悪魔』(RAM PRACTICE 2021 - EXHIBITION)  
『花束の行方』(RAM PRACTICE 2021 - ONLINE SCREENING)  
Ad Mornings パフォーマンス、映像、新聞制作 (RAM PRACTICE 2021 - EXHIBITION)



## 作家プロフィール

うえだあやみ Ayami Ueda

1995年生まれ 京都府出身  
2019年 成安造形大学 芸術学部洋画コース研究生修了  
<個展>  
2021年 「空白にふれて海面が光る」RISE GALLERY showroom(東京)  
2017年 「空としろのあいだ」成安造形大学ギャラリーキューブ(滋賀)  
<グループ展>  
2020年 「EPIC PAINTERS Vol.7」THE blank GALLERY(東京)  
「自我像展」ギャラリーマロニエ(京都)  
2019年 成安造形大学・卒業制作展 大津市歴史博物館(滋賀)  
「明日の私がここにいることを想像する / 架空の身体」芸術103(石川)  
「CAVE」gallery TOWED(東京)  
2018年 「透明になったラベルシール / あのかたち」Art Space-MEISEI(京都)  
「絵画 tomorrow 6 大学推薦若手の展覧」ギャラリーマロニエ(京都)



定村瑠子 Yoko Jomura

1998年生まれ 富山県出身  
2020年 金沢美術工芸大学大学院修了  
<グループ展>  
2020年 「FACE 展 2020」撮保ジャパン日本興亜美術館(東京)  
「FACE 展 選抜作家小品展 2020」REIJINSHA GALLERY(東京)  
2020年 「第5回星乃珈琲店絵画コンテスト」優秀賞 星乃珈琲店巡回中



宮崎竜成 Ryusei Miyazaki

1996年生まれ 京都府出身  
2020年 金沢美術工芸大学大学院 絵画科修士課程修了  
現在 金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科博士後期課程在籍  
<個展>  
2020年 「その声は歌になるか、その音は律動するか」慧星倶楽部(石川)  
<グループ展>  
2020年 「明滅/通電」プライベート(東京)  
「深海のような、あるいはI miss you.Polaris」会場非公開  
2019年 「明日の私がここにいることを想像する/架空の身体」芸術103(石川)  
2018年 「写真的曖昧」金沢アートグリ(石川)



# 『密室、風通しの良い窓、ぎこちないモンタージュ』

企画 宮崎竜成 出品作家 うえだあやみ、定村瑠子、宮崎竜成

## 展覧会概要

「密室、風通しの良い窓、ぎこちないモンタージュ」は「ファン・デ・ナゴヤ美術展2022」に採択された、うえだあやみ、定村瑠子、宮崎竜成の三名によって行われる展覧会であり、絵画とパフォーマンスを通し、あらゆる二項対立を共存させる身体について問う抽象的かつ具体的な実践の一つでもある。ソーシャルメディアが飽和した社会の現状において、多様性という概念のもとに、身体やそれを取り巻く環境は一層複雑化している。一方、多様性という言葉が絶対的な基準点となってしまうことで複雑さが失われ、単純な二項対立へと還元されてしまうこともしばしばあるだろう。どうすれば複雑さを保ったまま相反するものたちと関係することができるのだろうか。

本展覧会は相反する対立項の中でも特に「内」と「外」、より具体的に言えば、「室内」と「室外」、そして相互の「交通」を取りあげる。ぐるぐると輪を描き、部屋を作る。それはあらゆる意味から自閉するテリトリーでありながら、私たちは窓を開けて風を取り込み、たまには友人を招き入れる。部屋の空気、外の空気。輪を閉じながら、同時に開き、他の輪と出会うことでその形を絶えず変化させること。私たちは招かれるべき来訪者であり、招き入れる居住者でもあるのだ。一方で、招かれ「ざる」べき来訪者であり、拒絶する居住者でもあるだろう。その身体は中途半端でぎこちないかもしれないが、そのぎこちなさを生かすことについて、私たちは私たちがの場をつくる。